様式1

令和 4 年度　学校評価表

学校教育目標	「夢や志に向かって挑戦する生徒の育成」
a　ミッション	「コミュニティ・スクールを基盤として取り組む『心を育てる教育』の実現」
a　ビジョン	「学校と地域が協働し，子供の未来を拓く学校」

尾道市立向東中学校

評価計画						自己評価							学校関係者評価				改善計画
	b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	f 目標値	7月 達成値	1月 達成値	h 達成度	i 評価	報告評価	j 結果と課題の説明	k 二次評価 イ	ロ	ハ	l コメント	m 改善案
学力の向上	主体的に学び続ける生徒の育成	対話的な学びの充実により，自ら学習意欲の向上と確かな学力の定着を図る。	（１）道徳の授業を通した対話的な学びの推進 ① 教員どうしの学び合いの推進 ・年間６回の研究授業の実施 ・公開研究会の実施 ② 道徳の授業作り ・課題設定の工夫 ・発問の工夫 ・対話の充実 ※生徒どうしの対話，教材との対話，自己内対話など，意図を持って対話を仕組む （２）対話的な学びを教科の授業へ広げる ① 対話的な授業の充実 ・個人の考えを持つ場の設定 ・ペアトークや班活動の充実 ・考えた事を表現する場の設定 ② 表現活動の充実 ・個人やグループで考えた事を表現する場の設定 ・タブレットやホワイトボードの活用の工夫 ③ 基礎基本の充実 ・各教科で単元テストや小テストの定期的な実施 ・「本質的な問い」につながる課題設定 （３）道徳教育を中心としたカリキュラムマネジメントの実施 ・道徳の重点項目と，行事や道徳の授業を関連させた強化期間の実施	○生徒アンケート 「学級の友達（生徒）との間で話し合う活動を通して，自分の考えを深めたり，広げたりすることができている。」に肯定的に答える生徒の割合 Ｒ３年度１月 ９３%	95%	85%		89%	B	7月のアンケートでは，肯定的に答えた生徒の割合は８５%であった。対話の時間を作る工夫だけでなく，効果的に活用できるように工夫していきたい。	2			・道徳から他教科や行事に結びつけるという試みが体育大会でなされていたことを知り驚きましたが，雨の中生徒達の動きに，内側からの気力を感じたのはそこからつながっていたのだとしっくりなりました。 ・体育大会前に強化期間として道徳授業をしたということがとても興味深かった。道徳教育が中心にあり，行事や他の教科も関連ついてくる。１人の人を形成していくために大切なことがここにあるのだと感じた。 ・学力の向上の根底には心の安定があると感じた。道徳の授業をすべての授業で対話的な学びを意識して展開されることは画期的であると思う。今後生徒が理解できていない部分を精極的に教師が友達に聞けるような授業を目指して欲しい。 ・対話的な学びの推進を道徳科だけに絞らず教科の授業へ広げたことは，学力の向上につながると思う。道徳教育と行事を横断的にカリキュラムマネジメントされたことで如実に成果が出たと考えられる。 ・生徒の主体的に学び続ける態度が少しずつ成長していると思われる。 ・評価指標は年間を通じてのものもありますが，中間時点で予定に見合う動きができていれば目標値で良いと思います。学年進行による変化（該当学年の前年との比較）も見ると良いと思います。道徳を柱に他教科への広がりを期待しています。 ・国語の学力調査では「基本的な漢字を書くこと」と「自分の文章が伝わる」ことが各学年共通した課題と読み取れる。これは単に中学校だけの問題ではなく小学校での教育も関係していると考えられる。小中コミュニティスクールとして取り組まれている中で連携した課題解決を行われているのか，行われているのであればその情報を共有いただきたい。 ・対話的な学びについては，授業参観の時に多くのクラスで実践されているのを見ました。 ・「教員と生徒との対話」是非多くして欲しい。高学年になると親にも話すことができない問題もあると思います。ぜひ対話を多くしてください。	・道徳以外の授業でも対話の時間を充実させていく。 ・向東中学校で目指す対話の姿を，教員間で共有し，取り組んでいく。 ・道徳と行事等を結びつけた，強化期間を２学期も実施し，達成感をより高めて行く。 ・思考や対話を促す技法に，教科を超えて統一感を持たせる。
				○教員アンケート 「授業では，対話的な学びの場面や，考えた事を表現する場面をつくっている」に肯定的に答える教師の割合 Ｒ３年度３月　８０%	90%	92%		102%	A	7月のアンケートでは，肯定的に答えた教員の割合は９２%であった。生徒の意欲や，思考・判断・表現力につなげていきたい。					
				○ 学力調査 １２月の学力調査で，全国平均を１００としたときの基本問題の正答率 正答率÷全国平均×１００	100%	－		－	-	B	各教科で対話的な学びを進めている。４月実施の全国学力学習状況調査では，国語７３（全国６９．０），数学４７（全国５１．４），理科５７（全国４９．３）であった。成果と課題を整理し，２学期以降の授業改善に生かしていきたい。					
				○重点項目強化期間の年間実施回数 ○行事後の生徒の感想や表情から達成感が得られているかみとる。	2	1		100%	A	体育大会前２週間において，強化週間を実施した。２週間前の週に２時間の道徳授業を実施した。「Ｃ－１５集団生活の充実」を主題として，「灯りの下の梅台」という題材を，また「Ｂ－（８）友情，信頼」を主題として，「みんなで跳んだ」という題材に，全クラスで取り組んだ。また，生徒会執行部や教員も，それらにつながるキーワードを用いながら全校の前で話をした。					
生徒指導の充実	心身ともに成長しようとする生徒の育成	生徒主体の活動の活性化と生徒一人ひとりが大切にされた相談しやすい体制を構築	（１）生徒主体の活動の活性化 ①委員会活動の充実 ・生徒会による目標やテーマの設定 ・目標やテーマにそった各委員会の生徒主体の活動の実施 ②特別活動の充実 ・課題解決に向けて生徒が企画・運営する活動の実施 （２）生徒一人ひとりが大切にされた相談しやすい体制の構築 ①生徒の良さや頑張りを認める取組の充実 ・生徒どうしが認め合う活動の実施 ・教職員が認める活動の実施 ②面接ウィーク，スクールカウンセラーによる面談の実施 ・担任だけでなく全教職員が面接を実施 ・スクールカウンセラーによる面談を１，２年生が全員実施	○生徒アンケート 「生徒会活動，学校行事，学級活動など主体的に取り組んでいる」という項目に肯定的回答をする生徒の割合	85%	77%		90%	B	「生徒会活動，学校行事，学級活動など主体的に取り組んでいる」という項目に肯定的回答をした生徒の割合は７７%であった。 体育大会では生徒会執行部と団長，各種リーダーを中心に，生徒が主体的に体育大会の練習を計画進行し，自分たちの力で体育大会を作り上げることができた。生徒総会で出た体操服下校を可能にしてほしいという要望に対して，生徒会執行部を中心に検討し，自分たちの力で実現させることができた。 生徒会活動や学級活動で更に主体的な活動を仕組んでいきたい。	9			・生徒達のリアルな想いの種を受け止め，実現に結びつけたことは卒業してからも社会へ働きかける力の源を育むように思います。 ・主体的に取り組むことで深く考え，行動にも繋がるだろうから，経験として大きいと思う。自信にもなったと思う。ルール変更を自分達で考え，実現できたことでとても嬉しかったと思う。自分達にもできると可能性も感じられたのではないだろうか。 ・行事に参加して，生徒が積極的に取り組んでいると感じている。外部評価が生徒に伝わるよう工夫が必要。 ・校則を見直して欲しいというエネルギーを感じた。 ・生徒が先生を信頼し，先生が生徒を信頼した学校が創造されている。 ・生徒に考えさせルールを守らせることで主体的な行動につながると思います。 ・委員会活動，特別活動は生徒自身が目標を設定し，目標管理を学べる場だと思う。それは社会で必要とされるスキルである。目標達成できたかどうかではなく，その先にあるPDCAのAの部分がしっかりできたか（次に活かせるか）についても是非取り組んで欲しい。 ・体育大会では生徒が主体的にという場面がよく見られました。 ・体育大会，大変よくできたと思う。自分達の力で作り上げたと思います。	・体育大会と同様に文化祭も生徒が主体的に作り上げるように指導していく。 ・より多くの生徒が主体的に活動できるように，学校行事だけでなく，学級やその他の活動でも生徒主体の活動を仕組んでいく。 ・主体的とは何か生徒と教職員で目指す姿を共有する。
				○生徒アンケート 「周囲から自分の良さや頑張りを認められている」という項目に肯定的回答をする生徒の割合	85%	78%		91%	B	「周囲から自分の良さや頑張りを認められている」という項目に肯定的回答をした生徒の割合は７８%であった。 例えば，体育大会期間中の生徒の良さや頑張りを見つけ，教職員が紙に記入して掲示し，生徒の良さや頑張りを認めることができた。 更に生徒どうしが良さや頑張りを認め合う活動を仕組んでいきたい。	9			・既になされていることかもしれませんが，部活の顧問と担任との連携，更に，学校では見えにくい課外活動をしている生徒も多いです。保護者との連携もぜひお願いしたいです。 ・自分の中で思っているだけでなく，言葉にして伝える大切さも感じられる。心を育むことの必要性，道徳教育へも繋がっていくと思う。 ・新学期になり生徒どおし，教師との距離感をどう縮めていくかを探っている時期。２学期から授業やクラブ活動など充実していく時期の生活の中で自己肯定感が高まる取組が必要。 ・評価の項目を意識した教育活動が実践されている。目標に向かって教育の質が向上していくと思う。 ・生徒が主体的に動けている。アンケートの結果も概ね良い数値となっている。 ・生徒は自己を肯定的に捉えており，スクールカウンセラーも機能している。 ・見られていることを意識させることが大切だと思います。継続して下さい。教職員の雰囲気が繋がっていることが大切です。情報の共有をしっかりと。 ・結果欄に書いてある「教職員が紙に記入して～」という取り組みは良いなと感じた。 ・多感な年頃ですから，色々大変だと思います。 ・先生と生徒，何でも相談できる関係になって生徒の話を聞いて欲しい。	・教職員が生徒の良さや頑張りを認める取組を行事等で継続して行うとともに，生徒どうしが良さや頑張りを認め合う活動を仕組んでいく。 ・担任以外の教職員による面談と２年生のスクールカウンセラーによる全員面談を計画通りに進めていく。 ・弱みや悩みなど正直に話ができるように，カウンセリングマインドを意識したり，面談の視点を明確にしたりするなど工夫をしていく。
				○生徒アンケート 「必要なときに，相談できる人が学校にいる」という項目に肯定的回答をする生徒の割合	85%	81%		95%	B	「必要なときに，相談できる人が学校にいる」という項目に肯定的回答をした生徒の割合は８１%であった。 担任による全員面談とスクールカウンセラーによる全員面談を１年生で実施することができた。 生徒が相談しようと思えるように面談の質を向上させていきたい。					
信頼される学校づくり	地域や社会に貢献できる生徒の育成	保護者への情報発信を充実するとともに業務改善を推進する。	（１）情報発信の充実 ○保護者との連携を密に，きめ細やかに即時対応を行う。 ① 些細なサインも見逃さず，問題発生時に即時対応する。 ② 心配事がある時に電話連絡及び直接連携をする。	○ 保護者アンケート 「心配事がある時学校に相談することができる」と答える保護者の割合	95%	85%		89.4%	B	「相談しにくい理由」 ・連絡が取りづらい(時間帯が合わない) ・まだ先生との信頼関係ができていない ・生徒本人が気持ちを伝えるのが苦手 ・重要な事は相談できるが些細な事は相談しにくい 引き続き，生徒と積極的にコミュニケーションをとり，生徒一人ひとりの理解をしっかりとする必要がある。また，時間帯が合わず連絡できない保護者には，学校だより等で連絡方法を伝えていく。	9			・一定数コミュニケーションが取りづらい家庭はあるかと思いますが，引き続き孤独を味わう生徒のないようろくしくお願いします。 ・電話だけでなくメールやコドモンを使って先生方と連絡を取ることができれば，時間を気にせずハードルが下がるような気がする。 ・保護者の我が子に対する思いを把握するのは難しいと思うが，我が子の成長を喜びと感じられるような発信の工夫。 ・コミュニケーションの充実が更に行われていけば達成度が上がると期待できる。 ・情報発信の工夫を継続して下さい。 ・今のネット社会，メールやチャットなどを用いた保護者との連絡ツールがあっても良いのではないか？ ・生活リズムも様々ですし，小学校ほど学校に関わることもなかったりしますね。	・生徒についての情報共有を引き続き取り組んでいく。 ・生徒や保護者とコミュニケーションを取り，信頼関係作りに取り組んでいく。タイムリーに成長した部分も含めて保護者連携をしていく。
			○学校行事等のオンライン配信	○保護者アンケート 「HPを月２回以上閲覧している」と答える保護者の割合 **→コドモンの積極的活用** **保護者アンケート コドモンの活用に対して肯定的評価の割合**	80% ↓ **90%**	5%		6.0%	D	今年度より学校だよりにQRコードを載せホームページに接続しやすくしている。しかしHPが見づらいという意見もあるので，工夫に努めたい。	6	1	2	・QRコードは良い考えと思います。教頭先生の業務範囲内で三役等と簡単でより魅力的なHP内容を話しても良いのではないでしょうか。 ・HPを見たくなるようなHPにしかないような物があると見る人は増えるかもしれない。 ・閲覧回数だけの指標ではHPの質は向上しないと思う。 ・紙での情報もたくさんあり，HPの必要性を保護者が感じづらいのかも。 ・目標と評価指標が合っていない。HPは手段なので何を発信する媒体にするか目的をしっかり設定する必要があると思う。 ・学校だよりや行事予定はどれも更新されているので役に立つと思います。プリントをきちんと持っている方はあまり必要ないかもしれませんが・・・	・コドモンでの発信に積極的に取り組んでいく。 ・学校だよりに「HPでも情報を閲覧することができる」ことを記載していく。
				○保護者アンケート 「学校だよりを見ている」と答える保護者の割合 →削除	80%	73%		91.2%	B	毎号見ている保護者の割合が73%だった。コドモンでも配信をするようにし，情報発信を進めていきたい。	9			・年々進化していますね。コドモンでも配信，賛成です。 ・子どもによっては手紙を出さない子もいるだろうからコドモンで手軽に見れるとありがたい。 ・見てもらうことを意識した評価から内容を評価してもらうことに進めたらどうか。 ・コドモンの配信で情報の周知が期待できる。 ・ぜひ実現してください。先生方の負担増にならないよう工夫して下さい。					
			（２）業務改善 ○勤務時間を意識した働き方を促進する。	○教職員の働き方改革アンケート「児童・生徒と向き合う時間が確保されている」で肯定的評価をしている割合	85%	53%		62.3%	C	「生徒と向き合う時間」とは生徒と直接対話する時間と思われがちだが，教材準備も向き合う時間の一つであると定義を明確に伝える必要がある。	9			・概ね賛成です。 ・生徒のことを考えている時間もあてはまると思う。 ・教材準備にかける時間や意識が向上する事に期待できる。 ・先生方の評価の統一を図って下さい。 ・より良い教育の場にする為には時間は必要であり，時間を捻出するために教職員の働き方改革をするのである。定時退校日は救える きっかけになるかもしれないが，それを守ることを指標にしても意味がない。スクラップアンドビルドのような大々的な形ではなく，日々の業務を10%効率化するといったスモールスタートでもいいので，コツコツと取り組まれた方がいいのでは。 ・自己評価が皆さん厳しめなのですかね。	・「生徒と向き合う時間」についての評価の統一を図っていく。
				○定時退校日に勤務時間終了後，45分以内に退校する者の割合	90%	70%		77.7%	C	75%の職員が定時退校日を意識をしている。教職員一人ひとりの意識を高める声かけをし，行動に表していく。	7	1	1	・先生方の気力・体力が充実していることが大切です。実現しますよう取り組を続けて下さい。 ・業務改善ともなると，長期計画になるだろうから一人ひとりの意識が大事になると思う。 ・退校時間だけを評価するのではなく業務内容の精選も必要ではないだろうか。 ・仕事が偏ってしまっているかもしれない部分が心配です。 ・意識して時短を取り組んで下さい。 ・部活の負担はどうでしょうか？指導者を先生ではなく地域の人材でという取り組みもあるようですが。	・意識を変えていく方法の一つとして定時退校日の取り組みを継続していく。 ・日々の退校時刻を各自で設定し，その時刻で退校できるよう取り組んでいく。また，その状況を観察し，改善に取り組んでいく。

【自己評価　評価】
A：100≦（目標達成）　　B：80≦（ほぼ達成）＜100　　C：60≦（もう少し）＜80　　D：（できていない）＜60

【外部評価】　イ：自己評価は適正である。ロ：自己評価は適正でない。　ハ：わからない。